

こくふさりい ころん
國府紗鈴依さん、縞鈴さん
(広崎4町内)

強さ光るボクシング姉妹

令和4年それぞれの
階級で日本一に

壁を乗り越え
さらに強く

高校ボクシング最強姉妹として全国に名をはせた國府紗鈴依さん、縞鈴さん。令和4年3月、第33回全国高等学校ボクシング選抜大会のライト級で紗鈴依さんが優勝、バンタム級で縞鈴さんが準優勝。同年9月の第1回全日本女子ジュニアボクシング選手権大会では、ライト級で紗鈴依さんが3位、バンタム級で縞鈴さんが優勝し、最優秀選手に選ばれるなど、輝かしい成績を残しています。

小学生の頃から空手をしていた2人は、開新高校ボクシング部見学の際、パンチだけで戦う姿に魅せられ、同校への入学を機にボクシングへ転向。「2人ともひたむきに頑張る選手です。姉は打ち合い、妹は相手の攻撃をかくぐり自分のパンチを当てる戦い方。それぞれの持ち味を引き出せるように指導しています」と話す西垣祥二郎監督の下で、ボクシングを学びました。

令和4年11月、そんな2人に大きな壁が立ちはだかりました。紗鈴依さんは、5月ごろから痛めていた右肩を手術。一方、縞鈴さんは世界ユース選手権の日本代表に選ばれ、世界デビュー。「海外の選手は迫力があり思うように戦えなかった」と振り返り、世界で戦う厳しさを実感しました。それから3カ月。取材で訪れた同校ボクシング場には、リハビリに通いながら左手と足を中心とした練習を続ける紗鈴依さん、新キャプテンとして部員を引っ張る縞鈴さん、壁を乗り越えさらなる高みを目指す2人の姿がありました。

この春から紗鈴依さんは日本体育大学に進学し、ボクシング部に入部。「たぐさんの人に応援される選手になりたい」と意気込む姉に続き、縞鈴さんは「高校最後の1年、全戦全勝し、誰もが認める強い選手になりたい」と力強く語りました。

上段写真左から/
姉・紗鈴依さん、
妹・縞鈴さん
下段写真左から/
弟・結鈴さんと練習する紗鈴依さん/
(2・3枚目)スーパーリング中の縞鈴さん(赤グローブ)

